

【編集後記】

『立教大学日本学研究所年報』第二十二号をお届けします。

ここ数年間、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、私たちは、人や物との接触を避けるため、様々なノウハウを身につけてきました。学会や会議は、同じ時間と空間を共にしなくても、オンライン形式によって開けるようになりました。校正も、郵送による紙のやり取りではなく、PDFを添付したメールでやり取りをすることができるようになりました。パンデミックによって、私たちは図らずも、人や物の移動にかかる手間と時間を省くことが出来るようになり、様々な仕事の効率化を進めることができたというわけです。

今は、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、少しずつパンデミック以前の日常の活動を取り戻しつつあります。今後は、パンデミックによって身につけた効率的な仕事のノウハウを活用しながら、対面ならではのきめこまやかなコミュニケーションや現物を目の当たりにするリアリティーを大切にしながら活動を進め、本誌のさらなる充実を目指していきたいと思えます。

本号は、研究員による論文五本、資料紹介二本、書評一本、二〇二二年度活動記録を掲載し、充実した内容となっております。

本誌の刊行にお力添えをいただいた全ての方々にご心より感謝申し上げます。

(井野)

立教大学日本学研究所年報 第二十二号

二〇二三年九月二十三日印刷

二〇二三年九月三十日発行

編集・発行 立教大学日本学研究所

東京都豊島区西池袋三三四一

一 二 号 館 二 階 B 二 〇 五

TEL/FAX: 〇三―三九八五―二六一七

E-mail: nihongaku@nikkyo.ac.jp

発行人 佐藤雄基

印刷 城島印刷株式会社